



平成22年7月27日

## 国際化学オリンピック参加生徒の成績について

文部科学省では、(独)科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しておりますが、このたび、日本(東京)で開催された「第42回国際化学オリンピック」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

(共同発表:「夢・化学-21」委員会、日本化学会化学教育協議会)

1. 受賞状況 : 金メダル2名、銀メダル2名

2. 参加者 : 4名の高校生

3. 受賞者詳細 :

浦谷 浩輝さん	滋賀県立膳所高等学校 (滋賀県) 2年 (16歳)	銀メダル
遠藤 健一※さん	栄光学園高等学校 (神奈川県) 3年 (17歳)	金メダル
片岡 憲吾さん	筑波大学附属駒場高等学校 (東京都) 3年 (17歳)	銀メダル
齊藤 颯さん	灘高等学校 (兵庫県) 2年 (17歳)	金メダル

(氏名の50音順にて掲載)  
(年齢は本大会終了時点のもの)

※ 遠藤さんは、2009年に金メダルを獲得。

4. 参加国数/人数 : 68カ国・地域 / 267名

5. 場所 / 期間 : 日本(東京) / 平成22年7月19日(月) ~ 28日(水)

6. 派遣機関 : 「夢・化学-21」委員会、日本化学会化学教育協議会

(お問い合わせ)

文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 千々岩、根橋、古屋  
電話 : 03-6734-4191 (直通) / 03-5253-4111 (内線 4192, 4193, 3890)

日本化学会 大倉、富樫、遠藤  
電話 : 03-3292-6164 (直通) 080-3216-0816

◆大会概括

- 国際化学オリンピックは1968年に東欧3カ国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）にて第1回大会が開催された。
- 2010年の日本大会は、第42回目。
- 日本は、2003年から参加を開始し、毎年4名の生徒を派遣。本年は8回目の参加。
- 昨年イギリス大会は、64カ国・地域、250名の生徒が参加し、日本の成績は金メダル2名、銀メダル1名、銅メダル1名であった。
- 本年は、68カ国・地域から267名の生徒が参加し、日本は全員がメダルを受賞、かつ金メダル2名、銀メダル2名という快挙であった。また、初の2年連続金メダル受賞者も生まれた。

◆日本代表団の日程

7月19日（月）	参加手続き・各国代表と合流
20日（火）	開会式、ウェルカムランチ
21日（水）	エクスカージョン
22日（木）	実験問題試験
23日（金）	エクスカージョン
24日（土）	理論問題試験
25日（日）・26日（月）	エクスカージョン
27日（火）	閉会式
28日（水）	選手団解散

◆参加生徒とその居住地

		居住地	
<small>うらたに ひろき</small>	浦谷 浩輝さん	滋賀県立膳所高等学校（滋賀県）2年（16歳）	滋賀県野洲市 銀メダル
<small>えんどう けんいち</small>	遠藤 健一さん	栄光学園高等学校（神奈川県）3年（17歳）	神奈川県鎌倉市 金メダル
<small>かたおか けんご</small>	片岡 憲吾さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3年（17歳）	東京都練馬区 銀メダル
<small>さいとう はやて</small>	齊藤 颯さん	灘高等学校（兵庫県）2年（17歳）	京都府京都市 金メダル

（「居住地」は保護者宅の所在地）

## ◆参加生徒のコメント

浦谷 浩輝さん 滋賀県立膳所高等学校（滋賀県）2年

両試験とも手応えはありましたが、周りのみんなも同じはず。余裕ある表情をしている海外の選手も多かったので、僅差の争いになっておりました。折り紙や書道など日本文化を体験するイベントを通じて、海外の選手と交流を深めることができたのも貴重な体験となりました。来年も必ず挑戦したい、そう思えるほど充実した大会でした。

遠藤 健一さん 栄光学園高等学校（神奈川県）3年

前回大会で金メダルを取っているのですが、周りから感想やアドバイスを求められることが多かったです。でも大会や問題を上から見たりせず、みんなと同じ立場で挑戦することを心がけました。前回足りないと感じた国際交流が多くできたのもよかったです。ホスト国の代表として、より多くの国の生徒たちと言葉を交わすことができました。

片岡 憲吾さん 筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3年

前回大会の代表候補に選ばれ、事前学習を通じて問題への心構えができたことが、今回に生きたと思います。期間中、体調を崩してしまいましたが、試験中は熱があるのも忘れるくらい集中できました。宿舎では各国の生徒たちが小グループに分かれて交流しました。翌日に試験のない夜は、どの部屋も遅くまで笑い声が上がっていました。

齊藤 颯さん 灘高等学校（兵庫県）2年

オリンピック代表に選ばれたことを、自分と一緒に喜んでくれたのが家族です。家族の言葉を励みに、筆記でも実験でも自分の力を出しきることができました。試験後の“再会のタベ”で、バンド演奏に合わせて海外の選手たちが踊りだしたのは楽しかったです。他の国の生徒もメンターの先生方も、会場全体で盛り上がりました。

## ◆同行役員のコメント

ヘッドメンター 木原 伸浩（化学グランプリ・オリンピック委員会オリンピックワーキンググループ委員/神奈川大学教授）

日本代表という期待と責任に精一杯応えてくれた生徒たちに心から感謝しています。代表候補のさらなる強化や国内大会の拡大など、今回の成果を次につなげることが今後の課題だと思います。日本開催ということで、報道を通して化学オリンピックという活躍の場があることを、化学好きな生徒たちに伝えられたのは大きな収穫です。

メンター 中村 朝夫（化学グランプリ・オリンピック委員会オリンピックワーキンググループ委員/芝浦工業大学教授）

代表候補の選出から事前学習や合宿を経て、この4人は見違えるほど成長しました。何より、自分で伸びていく力が素晴らしかったです。環境さえ整えてあげれば自ら学ぶし、実力を超える課題を与えても、逃げずに取り組んで向上します。メンター（＝導き手）として、これほどやりがいを感じる学び手はいません。立派な高校生たちです。

## ◆国際化学オリンピックにおける過去3年間の日本代表の成績

2007年（第39回 ロシア・モスクワ大会）

銅メダル4名（参加規模：66カ国・地域、256人）

2008年（第40回 ハンガリー・ブダペスト大会）

銅メダル4名（参加規模：66カ国・地域、257人）

2009年（第41回 イギリス・ケンブリッジ大会）

金メダル2名、銀メダル1名、銅メダル1名（参加規模：64カ国・地域、250人）

## ◆国際化学オリンピック（IChO=International Chemistry Olympiad）について

1968年に東欧3カ国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会である。参加資格があるのは高校生または高校と同等の学校（ただし高校相当の学年）に在学する20歳未満の生徒となる。

大会は世界の高校生が一堂に会し、化学の実力を競うと同時に交流を深めることを目的としている。毎年7月に10日間の日程で開催され、生徒らはそれぞれ5時間の実験問題と理論問題に挑戦する。成績優秀者には金メダル（参加者の約1割）、銀メダル（同約2割）、銅メダル（同約3割）が授与される。

日本は2003年のアテネ大会より参加しており、2004年のドイツ・キール大会から7年連続で参加生徒全員がメダルを獲得している。

## ◆全国高校化学グランプリについて

「高校化学グランプリ」は、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として、「夢・化学-21」委員会と日本化学会化学教育協議会が1998年、東京と仙台の2カ所で試験的に実施したのが始まりである。翌1999年から、「全国高校化学グランプリ」として全国規模で開催されるようになり、今日では参加者が3,000人を超す大会に発展している。本大会の高校2年生以下の成績優秀者約20名が国際化学オリンピックに出場する日本代表の一次候補生として推薦されている。

## ◆参考資料に関するお問い合わせ先

（社）日本化学会／大倉、富樫、遠藤

TEL 03-3292-6164／FAX 03-3292-6318

（社）日本化学工業協会内／井上（「夢・化学-21」委員会）

TEL 03-3297-2555／FAX 03-3297-2615

○ ホームページ <http://icho.csj.jp/>

<http://www.kagaku21.net/>

※第42回国際化学オリンピックに関する詳細や写真データは、

<http://www.icho2010.org/top.html> をご参照ください。